

I 調査結果の概要

1 生乳生産量と用途別処理量

(1) 生乳生産量

— 生乳生産量は0.8%減少 —

平成16年の生乳生産量は832万8,951tで、前年に比べ0.8%減少した。

これは、飼養頭数が減少したことに加え、猛暑の影響等の理由により年後半の生産量が減少したためである。

図1 生乳生産量の推移

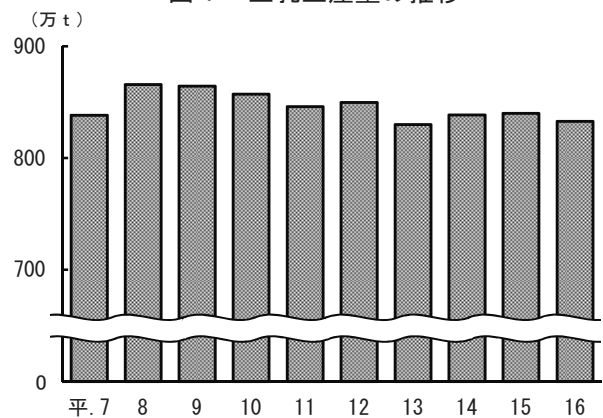
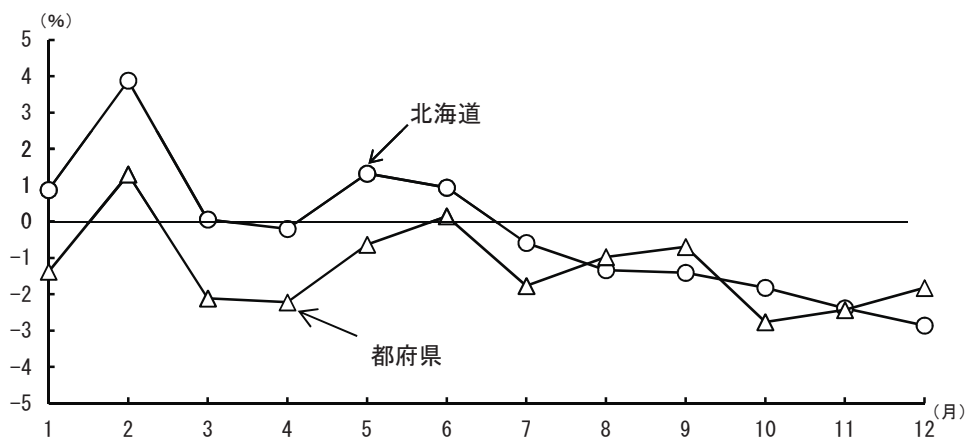


図2 生乳生産量の前年同月に対する増減率(平成16年)



注：平成16年は閏年であったため、前年に比べ2月の搾乳日数が1日多い

表1 生乳生産量

年次	実数(t)			対前年比(%)		
	生乳生産量	北海道	都府県	生乳生産量	北海道	都府県
平. 14	8 385 280	3 775 960	4 609 320	101.0	103.7	98.9
15	8 400 073	3 849 338	4 550 735	100.2	101.9	98.7
16	8 328 951	3 837 062	4 491 889	99.2	99.7	98.7

(2) 農業地域別生乳生産量

— 北海道が生乳生産量シェアは46.1% —

生乳生産量を農業地域別にみると、北海道は383万7,062 t（全国に占める割合46.1%）で最も多く、次いで関東が130万4,765t（同15.7%）、九州が80万5,775t（同9.7%）の順となっており、この3地域で全国の約7割を占めている。

また、農業地域別に5年前（平成11年）と生乳生産量を比べると、北海道では増加しているものの、その他の地域では減少している。

図3 農業地域別生乳生産量シェア

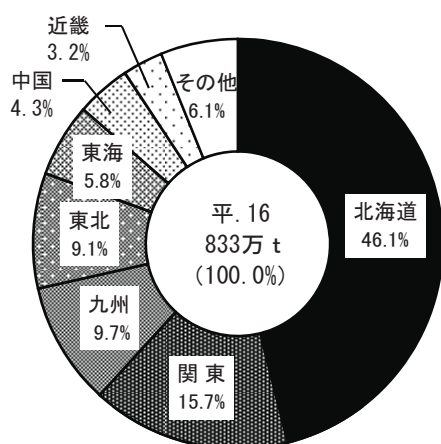
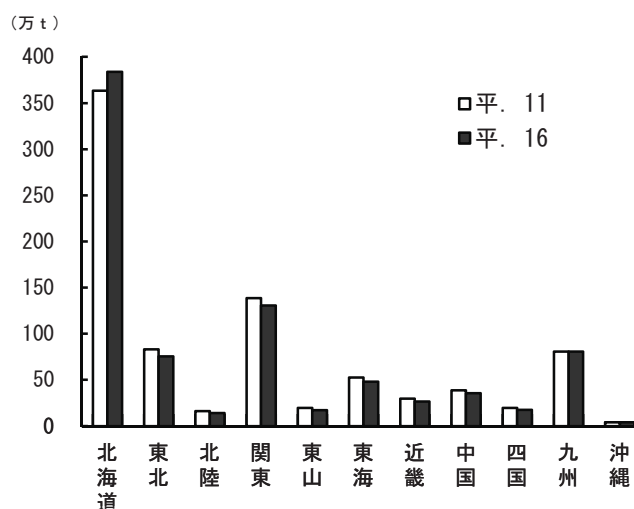


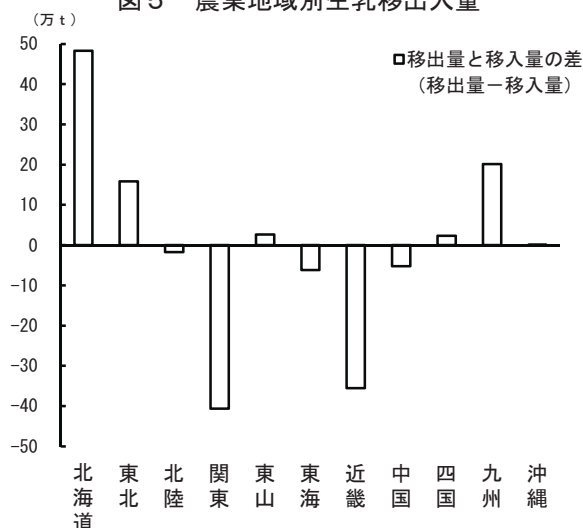
図4 農業地域別生乳生産量の推移



(3) 農業地域別生乳移出入量

生乳移出入量を農業地域別にみると、移入量よりも移出量が多いのは北海道、九州、東北の順、移出量よりも移入量が多いのは関東、近畿、東海の順となっている。

図5 農業地域別生乳移出入量



(4) 用途別処理量

— 牛乳等向け処理量が全体の約6割を占める —

生乳の用途別処理量をみると、牛乳等向け処理量は495万4,710 t、乳製品向け処理量は329万2,397 tであり、牛乳等向け処理量が生乳生産量の約6割を占めている。

表2 生乳用途別処理量

年次	生乳生産量	用途別処理量			
		牛乳等向け	業務用向け	乳製品向け	その他向け
平.16	8 328 951	4 954 710	296 843	3 292 397	81 844
生乳生産量に占めるシェア (%)	100	59	(4)	40	1

2 牛乳等生産量

(1) 飲用牛乳等生産量

— 平成16年の牛乳生産量は、397万1,177kl —

飲用牛乳等の生産量をみると、牛乳生産量は397万1,177kl、加工乳・成分調整牛乳生産量は48万2,980klであった。

また、加工乳・成分調整牛乳のうち成分調整牛乳は18万1,545klであった。

表3 飲用牛乳等生産量

単位：kl

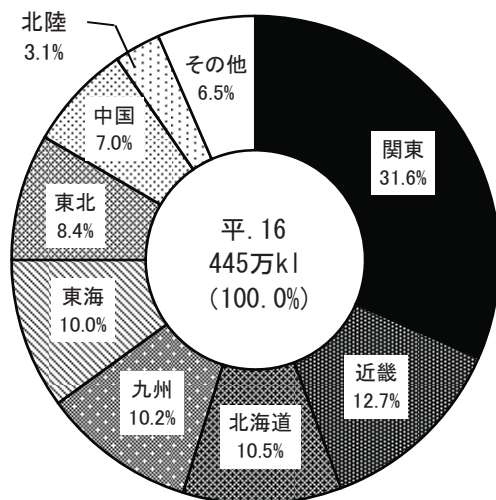
年次	飲用牛乳等					
	計	牛乳	加工乳・成分調整牛乳			
			業務用	業務用	成分調整牛乳	
平.16	4 454 157	3 971 177	283 978	482 980	16 118	181 545

(2) 農業地域別飲用牛乳等生産量

— 関東の飲用牛乳等生産量シェアは31.6% —

飲用牛乳等生産量を農業地域別にみると、関東が140万9,118kl（全国に占める割合31.6%）で最も多く、次いで近畿が56万6,587kl（同12.7%）、北海道が46万8,104kl（同10.5%）の順となっている。

図6 農業地域別飲用牛乳等生産量シェア



(3) 乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料生産量

— 乳飲料生産量は2.2%増加 —

乳飲料の生産量は118万9,388k1で、前年に比べ2.2%増加した。一方、はっ酵乳は77万7,548k1、乳酸菌飲料は17万4,060k1で、前年に比べそれぞれ1.9%、5.4%減少した。

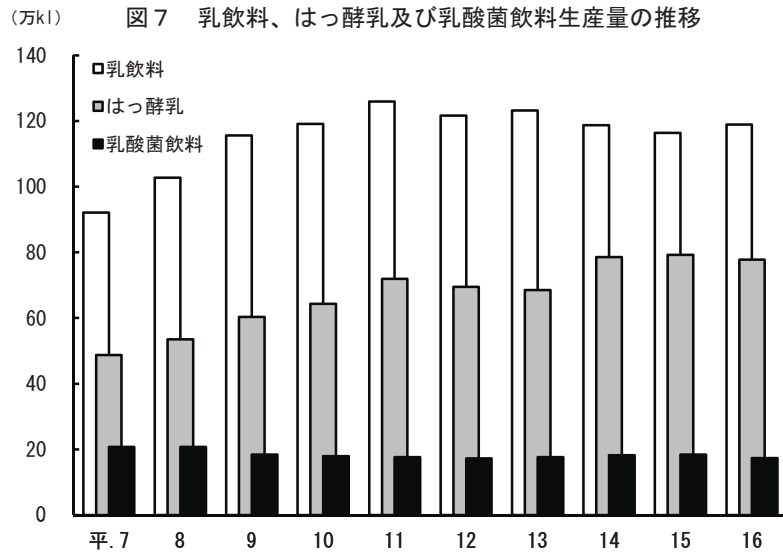


表4 乳飲料、はっ酵乳及び乳酸菌飲料生産量

年次	実数 (k1)			対前年比 (%)		
	乳飲料	はっ酵乳	乳酸菌飲料	乳飲料	はっ酵乳	乳酸菌飲料
平.14	1 186 886	785 742	181 992	96.3	114.6	103.3
15	1 163 588	792 216	183 901	98.0	100.8	101.0
16	1 189 388	777 548	174 060	102.2	98.1	94.6

3 乳製品生産量

— チーズ生産量が0.7%増加 —

主な乳製品の生産量をみると、脱脂粉乳は18万2,657 t、バターは8万97 tでそれぞれ前年並み、チーズは11万9,572tで前年に比べ0.7%増加し、クリームは9万1,496 tで前年に比べ1.9%減少した。

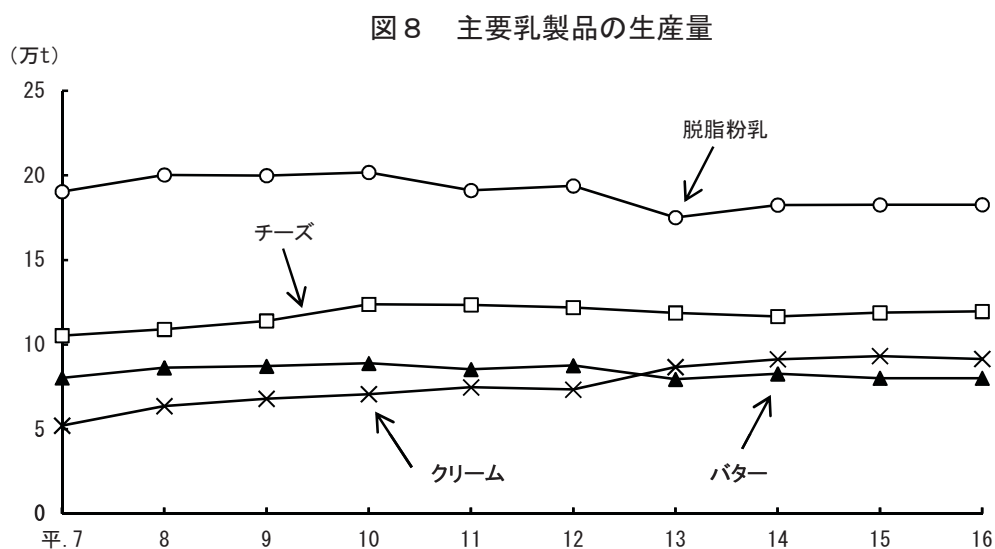


表5 乳製品生産量

年次	単位：t								脱脂加糖 れん乳	脱脂粉乳	アイス クリーム
	加糖れん乳	無糖れん乳	全粉乳	調整粉乳	バター	クリーム	チーズ	うち、 ナチュラルチーズ			
平.14	30 453	2 452	16 580	37 318	82 744	91 308	116 564	13 692	5 068	182 518	100
15	33 921	1 738	16 136	36 957	80 079	93 228	118 778	13 635	6 453	182 618	103
16	34 599	1 649	14 942	34 758	80 097	91 496	119 572	12 323	5 658	182 657	113
対前年比(%)	102.0	94.8	92.6	94.1	100.0	98.1	100.7	90.4	87.7	100.0	108.9

4 牛乳処理場及び乳製品工場数

(1) 処理場・工場数

— 小規模工場を中心に24工場が減少 —

平成16年12月末日現在の牛乳処理場及び乳製品工場数は、前年に比べ24工場減少し741工場となった。

これを平成16年12月の月間生乳処理量規模別にみると、小規模な62 t 未満階層で最も多く23工場減少している。また、乳業工場の再編等により1,240t以上の大規模階層でも減少している。

なお、生乳を処理した処理場・工場のうち、62 t 未満階層が全体の54%（378工場）を占めている。

図9 牛乳処理場及び乳製品工場数の推移

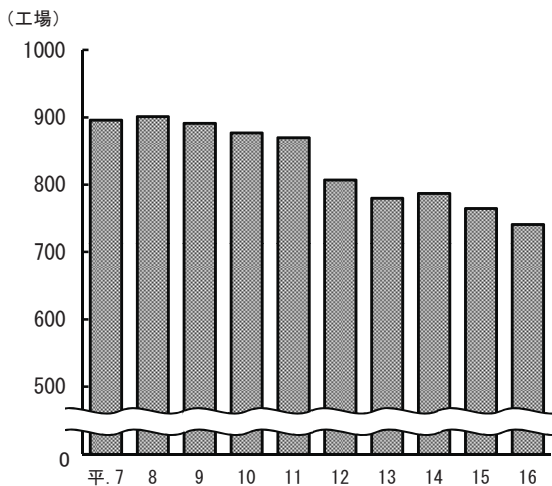
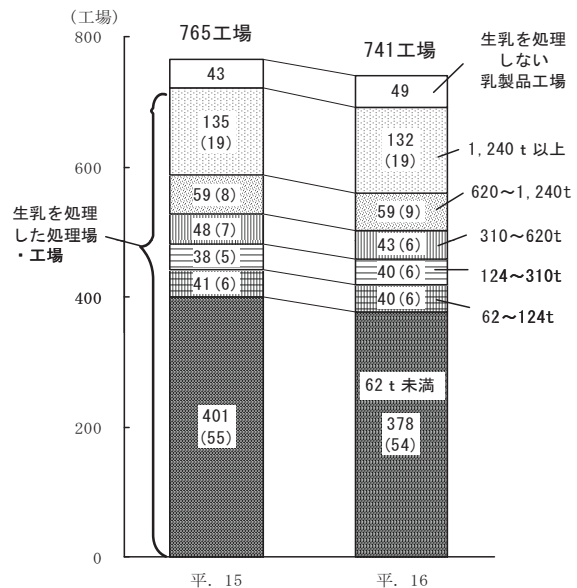


図10 12月の月間生乳処理量規模別の処理場・工場数（12月31日現在）



注：（）内は、生乳を処理した処理場・工場数を100とした生乳処理量規模別の処理場・工場数割合

表6 全国の牛乳処理場・乳製品工場数

単位：工場

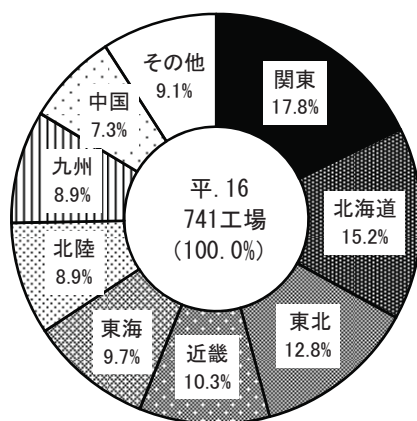
区分	計	経営組織別			12月の月間生乳処理量規模別							生乳を処理しない乳製品工場
		会社	農業協同組合	個人その他	62t未満	62~124	124~310	310~620	620~1,240	1,240t以上		
平. 14	787	506	69	212	414	42	41	52	58	139	41	
15	765	492	66	207	401	41	38	48	59	135	43	
16	741	482	60	199	378	40	40	43	59	132	49	
対前年差	△ 24	△ 10	△ 6	△ 8	△ 23	△ 1	2	△ 5	0	△ 3	6	

(2) 農業地域別処理場・工場数

— 関東の処理場・工場シェアは17.8% —

処理場・工場数を農業地域別にみると、関東は132工場（全国に占める割合17.8%）で最も多く、次いで北海道が113工場（同15.2%）、東北が95工場（同12.8%）の順となっている。

図11 農業地域別処理場・工場シェア



(3) 製造品目別処理場・工場数

— 粉乳、バター、クリーム及びチーズを製造した工場数が増加 —

処理場・工場数を製造品目別にみると、牛乳を製造した工場は584工場、加工乳・成分調整牛乳を製造した工場は198工場等となっており、粉乳、バター、クリーム及びチーズを製造した工場数は増加した。

表7 飲用牛乳等及び乳製品を製造した工場数（平成16年1月～12月）

区分	飲用牛乳等		れん乳	粉乳	バター	クリーム	チーズ	乳脂肪分8%以上のアイスクリーム
	牛乳	加工乳・成分調整牛乳						
平. 15	610	218	49	59	71	77	122	153
16	584	198	47	60	73	83	126	147
対前年差	△ 26	△ 20	△ 2	1	2	6	4	△ 6

注：「れん乳」は、加糖れん乳、無糖れん乳及び脱脂加糖れん乳を製造した延べ工場数であり、「粉乳」は、全粉乳、調製粉乳及び脱脂粉乳を製造した延べ工場数である。